

○大海人皇子(のちの天武天皇)

飛鳥時代、第40 第天皇。在位 673-686。父は舒明天皇、母は宝皇女。

天智天皇の同母弟。天智天皇の子大友皇子(弘文天皇)との皇位をめぐる争い(壬申の乱)に勝利し、飛鳥の浄御原の宮で即位。天皇中心の政治の確立をめざし、飛鳥浄御原令や八色の姓などを制定した。朱鳥元年9月9日死去。

・壬申の乱

天武1年(672年)5月近江朝廷が天智陵築造の名目で兵を集め、また吉野への糧道を絶ったと聞き、6月挙兵を決意、吉野を出て東国に入る。このとき、鈴鹿関司に鈴鹿山道を塞ぐよう命じたとされている。伊勢(三重県)、美濃(岐阜県)から東海、東山の軍をおこして朝廷を攻め、7月大津京都を陥れ、大友皇子は自刃した。

参考文献 朝日日本歴史人物事典 朝日新聞社 1994 年
講談社日本人名大辞典 講談社 2001 年